

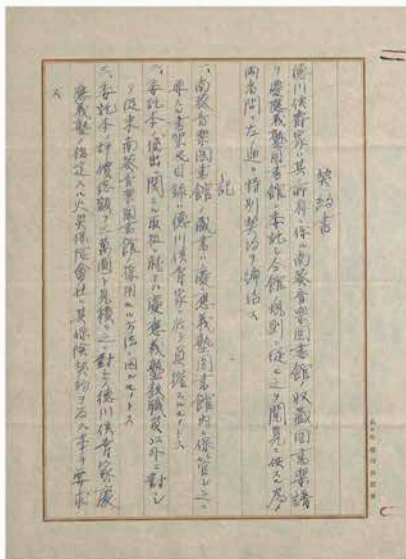


2019年2月8日(金) 18:15 南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

コレクションには「魂」が宿る? 散逸、盗難、被災をこえて:戦後の再発見から展覧会(1967)、読響移管へ至るまでの足取りは

音楽図書館の閉館 「南葵音楽文庫特別公開」、仮公開 和歌山で公開
 1932年11月閉館 {34年} 1967年3月、1970-77年 {40年} 2017年
 読売新聞社告

南葵音楽文庫
 和歌山県立図書館内
 和歌山市西高松 1-7-38
 tel. 073-436-9500



↑ 慶應義塾図書館との寄託契約案

1967年の展覧会以後、精力的な整理と文献の新規購入がおこなわれた。また貴重資料のマイクロフィルム収録が、助成金をうけておこなわれた。その多くは、「デジタル南葵楽堂」でネット公開されている。この期間には、音楽書と貴重資料の冊子体目録が刊行された。



南葵音楽図書館閉館後は、一時期慶應義塾大学図書館に保管され、一部の音楽家が利用しただけであった。そこも戦禍をさけて疎開するなど、場所は転々とし、その間に所有者も替わった。

1967年、南葵音楽文庫の所在が確認され、公開をもとめる声を背景に、読売新聞社主催の「特別公開南葵音楽文庫」展が開催された。1970年には、コレクションは財団法人日本近代文学館の施設(東京・駒場)の4階で仮公開され、さらに図書館としての再出発に必要な図書、楽譜などの積極的な購入が行われた。その図書館は、徳川頼貞がおこなったようにあらたな音楽ホールに併設される予定であったが、その計画全体が取りやめになったため、設立された財団も解散、音楽文庫は、新たに収集された部分もふくめ、そっくり読響に移管された。

1977年以後 新収集部分は東京音大が保管、1992年からは国立音大が保管し、マイクロフィルムを公開。1999年読売日本交響楽団に返還された。